



藤田観光株式会社
2022年12月期 第2四半期
決算説明資料

2022年8月9日
藤田観光株式会社
(証券コード：9722)

損益計算書



FUJITA KANKO

2022年12月期 第2四半期決算説明資料

2Q累計で前年比63億円（53%）増収、62億円（62%）の営業赤字縮小

- ▶まん延防止等重点措置解除後、回復する需要を確実に取り込み、全ての事業で前年比増収、赤字縮小
- ▶ラグジュアリー&バンケット事業2Q（4～6月）においては2019年4Q（10～12月）以来の営業黒字化

			2022年	2021年	前年比	<参考> 2019年 2Q累計実績	
	(百万円)	1Q実績 1～3月	2Q実績 4～6月	2Q累計 実績			2Q累計 実績
売上高		7,959	10,348	18,308	11,928	6,379	33,605
	WHG事業	3,752	4,668	8,421	3,799	4,621	18,394
	ラグジュアリー&バンケット事業	2,629	3,998	6,628	5,957	670	11,014
	リゾート事業	1,060	1,140	2,200	1,345	855	2,681
	その他（調整額含む）	517	540	1,058	826	232	1,514
営業利益		▲2,214	▲1,589	▲3,804	▲10,056	6,252	▲153
	WHG事業	▲1,326	▲1,295	▲2,621	▲7,310	4,688	1,047
	ラグジュアリー&バンケット事業	▲515	111	▲403	▲1,486	1,082	▲214
	リゾート事業	▲273	▲313	▲586	▲880	293	▲634
	その他（調整額含む）	▲99	▲92	▲192	▲378	186	▲352
経常利益		▲2,216	▲1,296	▲3,512	▲10,344	6,831	▲64
	特別利益	842	69	912	36,389	▲35,477	115
	特別損失	—	—	—	3,160	▲3,160	120
	税金費用等	▲57	16	▲41	3,484	▲3,526	62
親会社株主に帰属する四半期純利益		▲1,316	▲1,242	▲2,558	19,400	▲21,959	▲131

損益計算書 (売上・営業利益推移)

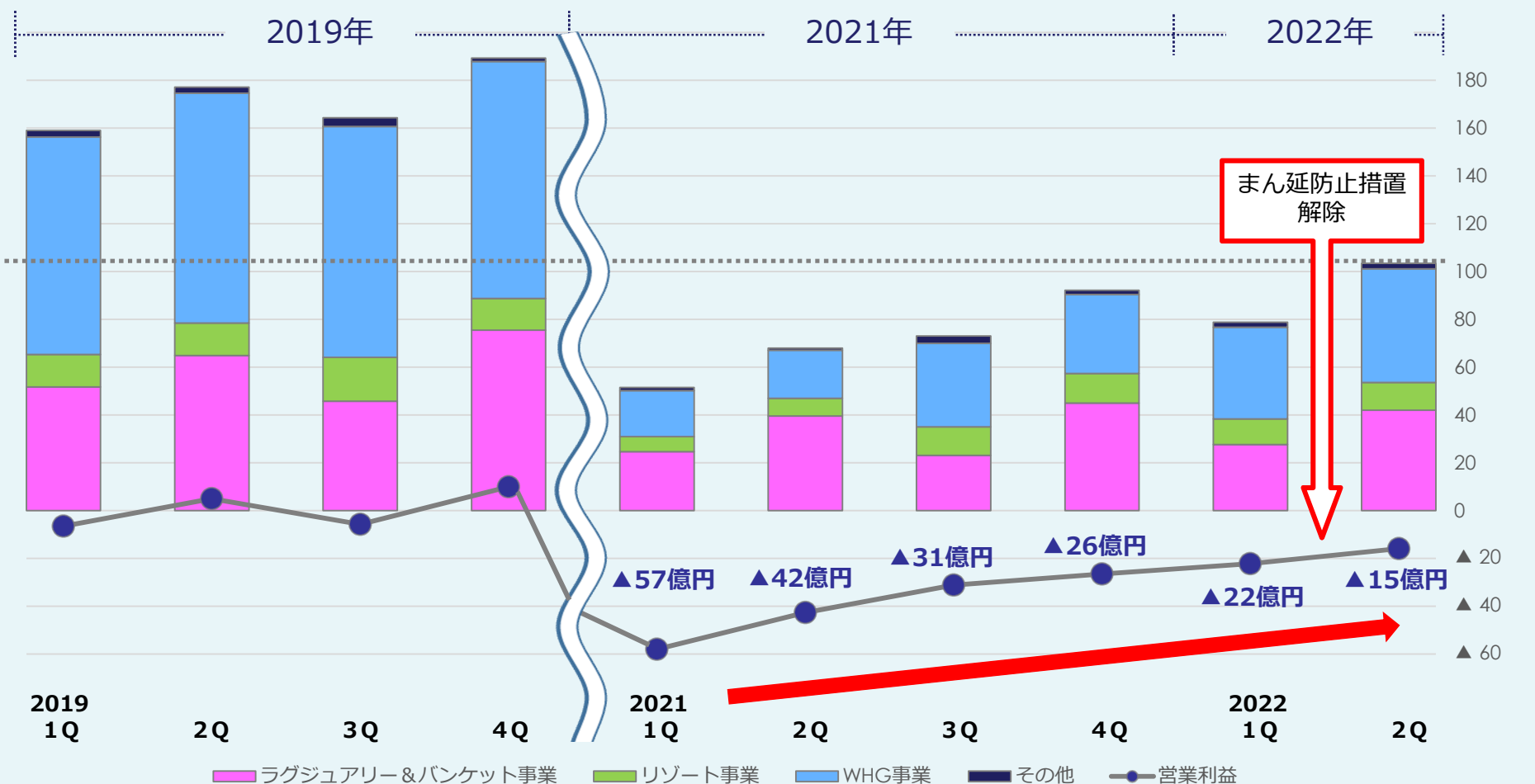


2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ 県民割などの観光支援策の後押しもあり、5 四半期連続で赤字が縮小
- ▶ 2019年比では、WHG事業の回復が鈍く、売上高は54%程度に留まる

売上高・営業利益推移

(億円)



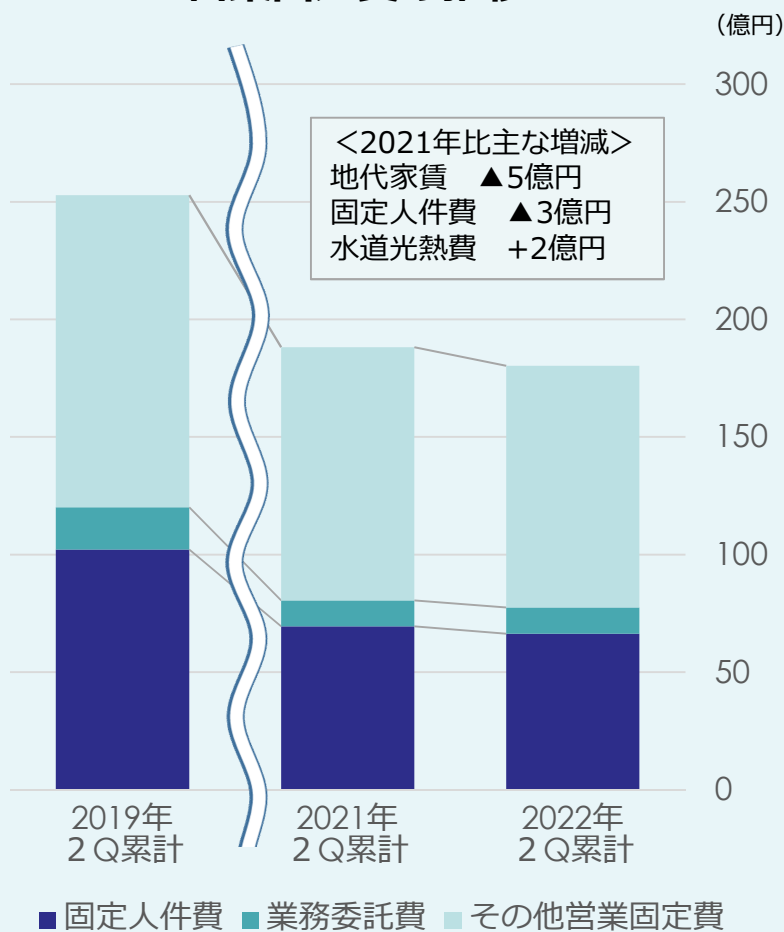
損益計算書 (コスト・営業利益増減要因)



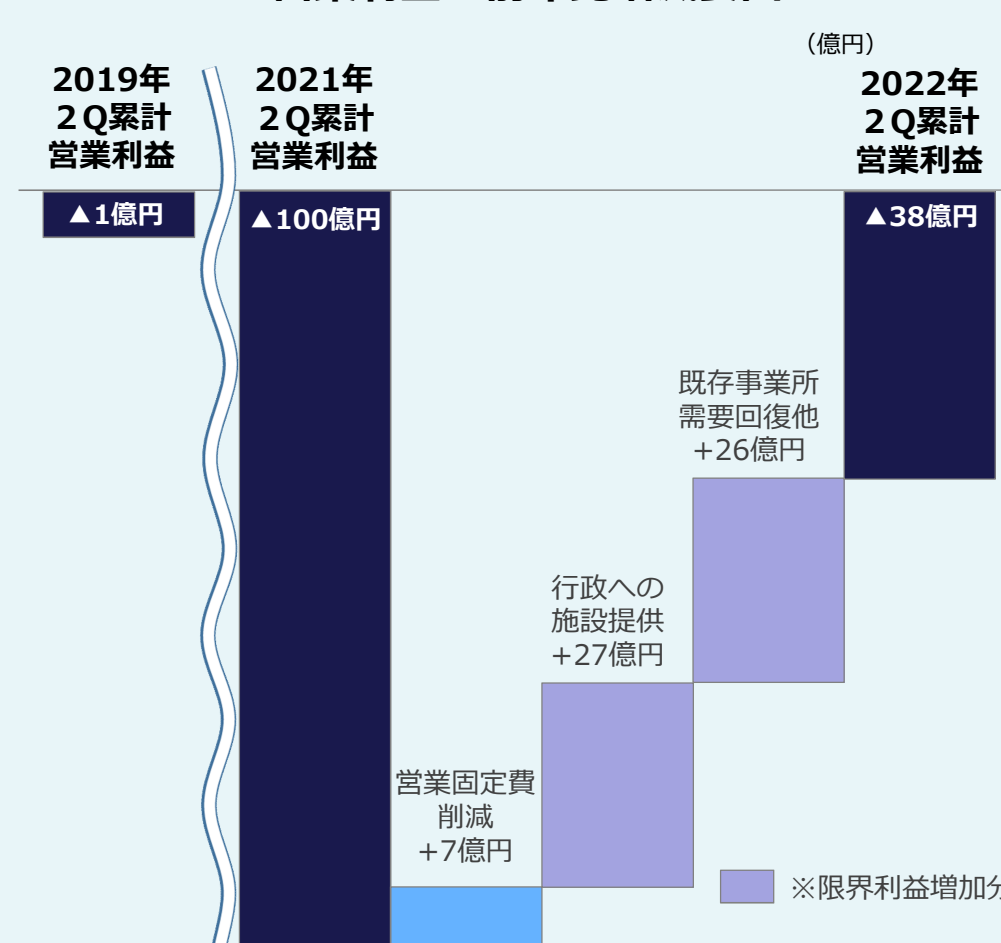
2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶コスト削減効果は一巡し、営業固定費は2Q累計で前年比▲4%、7億円削減
- ▶WHG事業での行政機関への施設提供や、既存事業所の需要回復による増収効果で赤字縮小

営業固定費の推移



営業利益 前年比増減要因



WHG事業 2Q概況



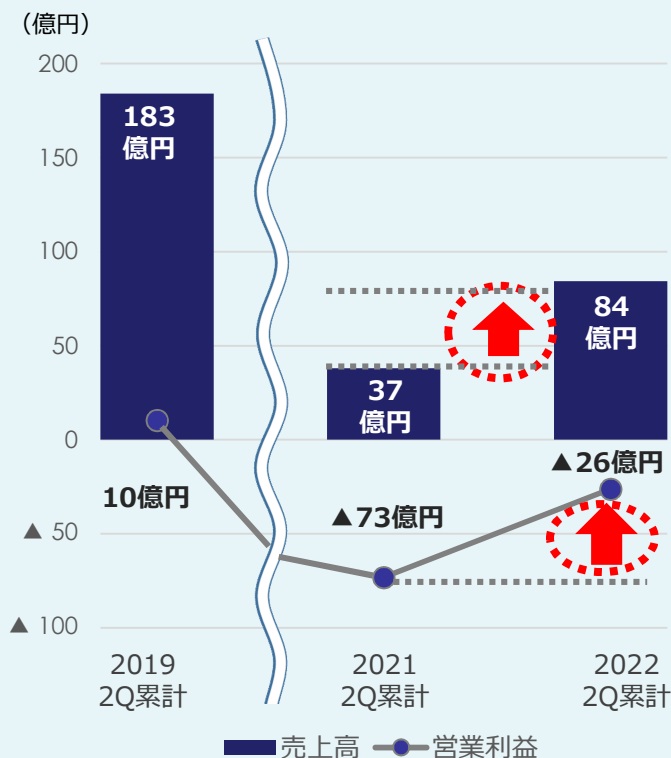
2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ゴールデンウィークの客室稼働状況が前年から大きく伸長した他、観光支援策によって喚起された需要を捉え、稼働率、ADRともに前年を上回る
- 行政機関への施設提供（一棟貸し）による増収効果もあり **前年比増収、赤字縮小**
- 2019年比では売上高の回復は46%程度

ゴールデンウィーク期間中
ADR：前年比+21.6%
稼働率：前年比+44.7pt

【提供施設】合計2,294室
①ホテルグレイスリー新宿（970室） ③ホテルタビノス浅草（278室）
②東京ベイ有明ワシントンホテル（830室） ④ホテルグレイスリー田町（216室）
※①②は現在も提供中 ③④は4月より通常営業再開

WHG事業 売上高・営業利益推移



WHG 営業指標 前年・2019年との対比（1～6月）

	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
合計	+23.1%	+26.2pt	▲42.1%	▲28.1pt
東京	+26.0%	+31.5pt	▲54.9%	▲25.5pt
東京以外	+18.0%	+20.9pt	▲25.7%	▲30.1%

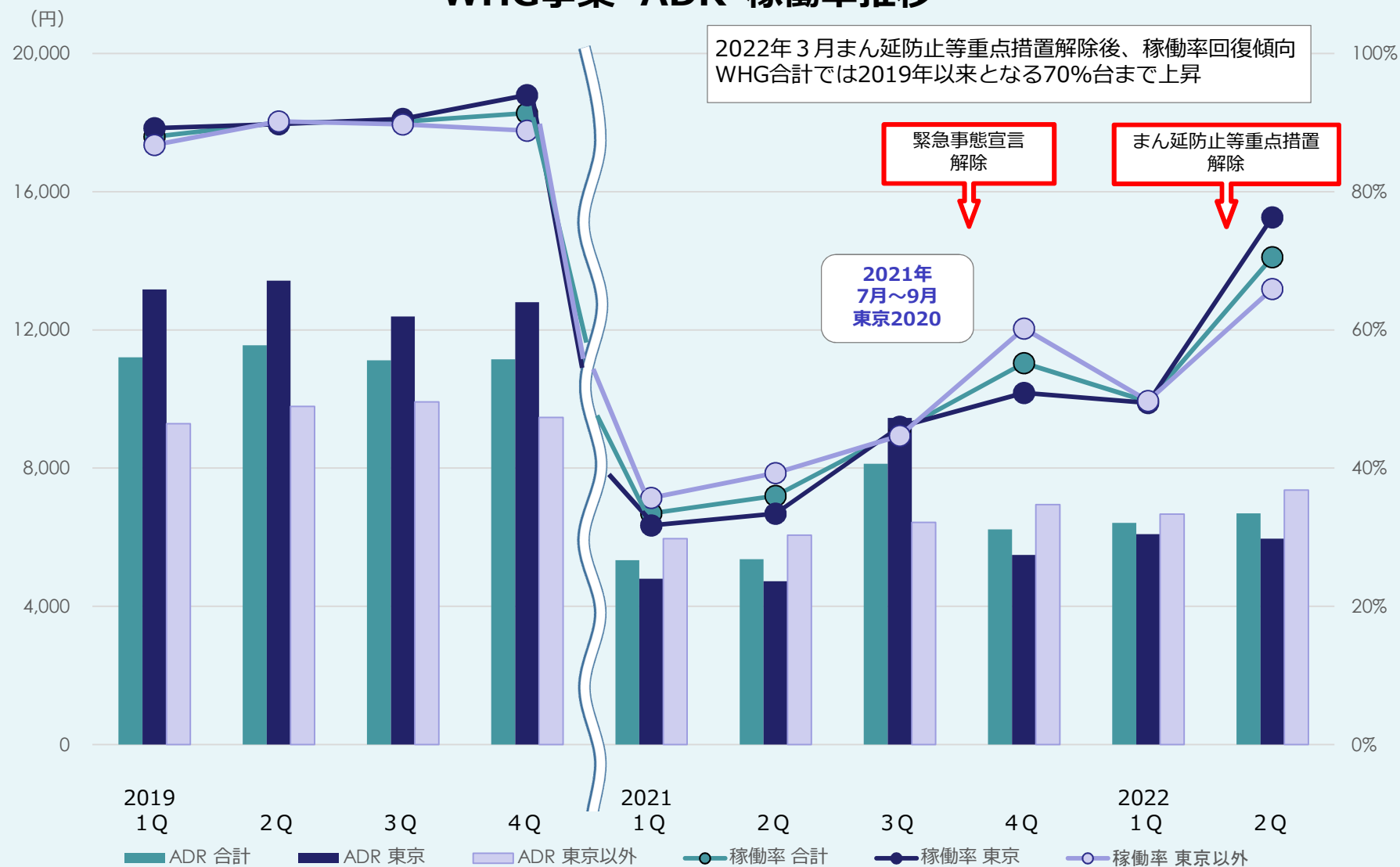
※2022年実績
1～3月：上記提供施設③④と
キャナルシティ・福岡ワシントンホテル
（工事のため3月まで営業休止）を除く
1～6月：上記提供施設①②を除く

WHG事業 ADR・稼働率推移



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

WHG事業 ADR・稼働率推移



ラグジュアリー&バンケット事業 2Q概況

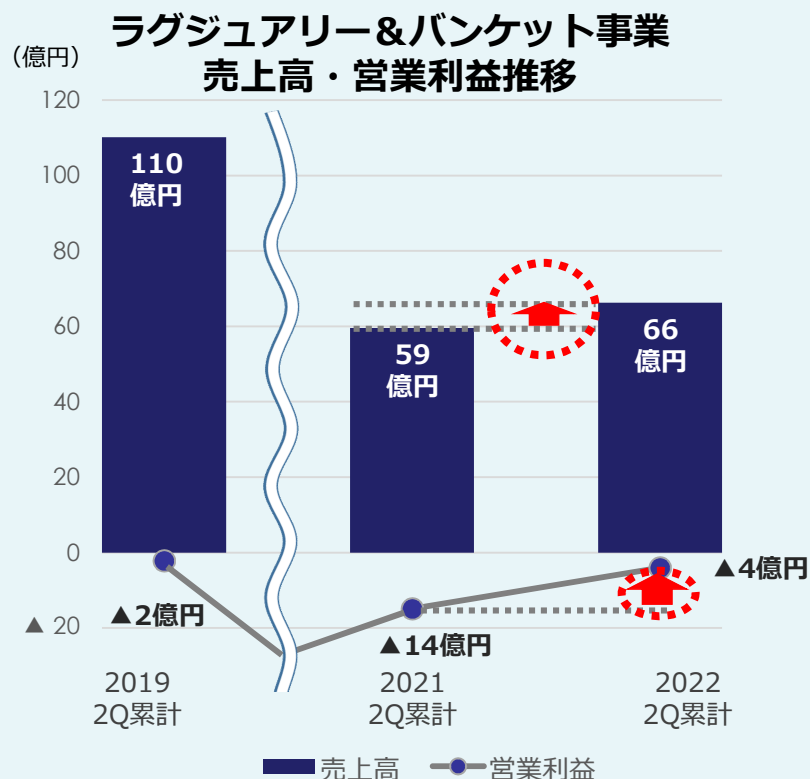


2022年12月期 第2四半期決算説明資料

「ホテル椿山荘東京」が好調に推移、前年比増収、赤字縮小

【ホテル椿山荘東京】

- 宿泊部門：「東京雲海」関連商品やスイートルーム拡販効果で、稼働率・ADRともに前年比プラス
- 婚礼部門：2021年からの延期も含め、人員41%増、実施件数は27%増
実施件数は2019年の8割まで回復
新コンセプト「東京リゾートウエディング」を軸に付加価値向上施策を展開し
新規来館者への訴求力を強化、成約率が向上
- 料飲部門：個人慶事利用に加え法人のレストラン利用も回復傾向
- 宴会部門：法人利用の回復に加え、恒例の「ほたるの夕べ」などのイベントが好況



ホテル椿山荘東京 営業指標 前年・2019年との対比 (1~6月)

	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
宿泊部門	+3.2%	+13.7pt	+19.0%	▲27.9pt
婚礼部門	一人あたり 単価	人員	一人あたり 単価	人員
	▲6.2%	+41.3%	+42.5%	▲41.3%
宴会部門	一人あたり 単価	人員	一人あたり 単価	人員
	▲7.9%	+158.0%	+22.1%	▲76.1%

リゾート事業 2Q概況



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

前年比増収、赤字縮小、2019年比8割まで売上が回復

【箱根小涌園 天悠】

- コロナ禍に対応したおこもりプラン（部屋食付き・シングルユース・デイユースプランなど）や高付加価値商品の販売が好調

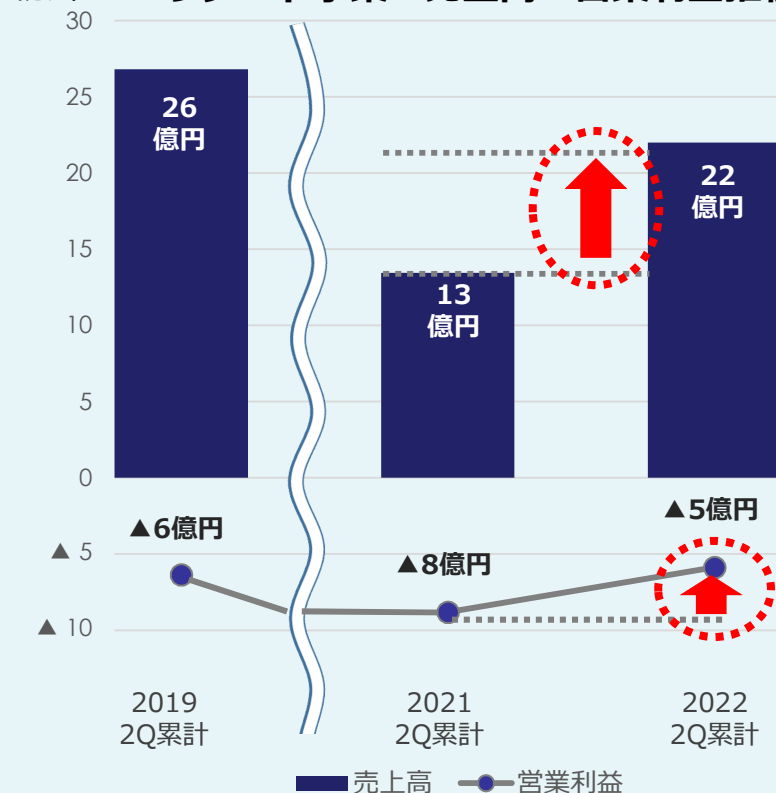
【宿泊部門】

- 平日集客施策により稼働率が向上
- 天悠の他、露天風呂付客室を有する「伊東 緑涌」や「三河屋旅館」がコロナ禍のおこもり需要を獲得
- 「藤乃煌 富士御殿場（グランピング施設）」はドーム型客室を増設、引き続き好調なアウトドア需要を取り込み稼働率が向上

【日帰り・レジャー部門】

- 「箱根小涌園ユネッサン」、「下田海中水族館」とともに、入場人員が前年から大きく伸長

リゾート事業 売上高・営業利益推移



営業指標

前年・2019年との対比（1～6月）

	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
箱根小涌園 天悠	▲5.4%	+32.1pt	▲0.6%	▲10.5pt
箱根小涌園 ユネッサン	入場人単価	入場人員	入場人単価	入場人員
	+1.3%	+69.0%	▲10.3%	▲24.7%

リゾート事業 箱根小涌園再開発【箱根ホテル小涌園】



FUJITA KANKO

2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ 2023年7月12日開業、2022年7月12日予約受付開始
- ▶ 「ユネッサンと一体的に温泉・自然・食事を体験できるホテル」をコンセプトに開発を推進
- ▶ 建設工事は計画通りに進捗

客室



- ・洋室の他、畳でくつろぐことができる和室や、3世代旅行にも適したデラックスルームも用意

レストラン



- ・庭園に面したビュッフェレストラン
- ・ライブキッチンで仕上げる出来立ての料理が楽しめる

大浴場



- ・箱根でも稀少な最上階に位置する大浴場は、明星ヶ岳、浅間山を望む景観が魅力
- ・7室の貸切風呂を設置し、様々なお客様の需要に対応

- ・しだれ桜がシンボルのホテル庭園と隣接する蓬萊園では、つつじや紅葉、自生するほたるの観賞など、豊かな自然の美しさを体感できる

ホテル開業に合わせユネッサンにおいても機能強化を推進

- ・流れるプールの新設や、キャンプ場・アスレチック、フードコート等の整備を行い、体験複合施設へ

▶箱根小涌園全体で、
一度の滞在では時間が足りないくらいのコンテンツやサービスを提供

部門別売上高



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

部門別売上高（1～6月）

(百万円)	部門	売上高実績	前年比	参考前年比※2
W H G	宿泊	7,573	4,430	—
	その他※1	847	191	—
ラグジュアリー&バンケット	宿泊	798	165	—
	婚礼	3,097	▲97	778
	宴会	712	269	369
	料飲	1,267	223	433
	その他※1	752	109	—
リゾート	宿泊	1,691	698	—
	日帰り・レジャー	426	154	—
	その他※1	82	2	—

部門別売上高（4～6月）

(百万円)	部門	売上高実績	前年比	参考前年比※2
W H G	宿泊	4,166	2,541	—
	その他※1	502	176	—
ラグジュアリー&バンケット	宿泊	450	137	—
	婚礼	1,934	▲284	336
	宴会	464	188	246
	料飲	729	182	295
	その他※1	418	63	—
リゾート	宿泊	854	334	—
	日帰り・レジャー	243	79	—
	その他※1	42	1	—

※1 その他：セグメント間の内部売上を含む

※2 参考前年比：

ラグジュアリー&バンケット事業：2021年に営業を終了した「太閤園（6月営業終了）」「オペラ・ドメーヌ高麗橋（6月営業終了）」「マリコレ ウェディングリゾート&レストラン（12月営業終了）」「鞆ヶ谷ガーデン アグラス（12月営業終了）」の影響を除外

主要事業所の営業指標



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

営業指標 前年との対比（1～6月）

宿泊部門			ADR	稼働率	
W	H	G	合計	+23.1%	+26.2pt
			東京	+26.0%	+31.5pt
			東京以外	+18.0%	+20.9pt
ホテル 椿山荘 東京			+3.2%	+13.7pt	
箱根小涌園 天悠			▲5.4%	+32.1pt	

営業指標 前年との対比（4～6月）

宿泊部門			ADR	稼働率	
W	H	G	合計	+24.8%	+34.6pt
			東京	+26.0%	+42.9pt
			東京以外	+21.6%	+26.6pt
ホテル 椿山荘 東京			+0.8%	+17.9pt	
箱根小涌園 天悠			+1.5%	+26.4pt	

婚礼・宴会部門	婚礼 一人あたり 単価	婚礼 人員	宴会 一人あたり 単価	宴会 人員
ホテル 椿山荘 東京	▲6.2%	+41.3%	▲7.9%	+158.0%

婚礼・宴会部門	婚礼 一人あたり 単価	婚礼 人員	宴会 一人あたり 単価	宴会 人員
ホテル 椿山荘 東京	▲7.1%	+28.2%	▲25.9%	+196.6%

日帰り・レジャー部門	入場人単価	入場人員
箱根小涌園ユネッサン	+1.3%	+69.0%

日帰り・レジャー部門	入場人単価	入場人員
箱根小涌園ユネッサン	+1.1%	+66.3%

貸借対照表



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ 総資産は前期末比81億円減少の1,046億円
- ▶ 純資産はA種優先配当金の支払や親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴い28億円減少の259億円、自己資本比率は前期末と同水準

	2020年末	2021年末	当四半期末
純資産	13億円	288億円	259億円
自己資本比率	1.2%	25.4%	24.7%

(百万円)

<資産>		2022年6月	2021年12月	前期末比	主な増減要因
流動資産合計		36,253	44,276	▲8,023	現預金の減少
固定資産合計		68,362	68,486	▲124	
資産合計		104,615	112,762	▲8,147	
<負債・純資産>		2022年6月	2021年12月	前期末比	主な増減要因
流動負債合計		22,392	23,935	▲1,543	借入金返済等による減少
固定負債合計		56,249	59,993	▲3,744	借入金返済等による減少
負債合計		78,641	83,929	▲5,287	
純資産合計		25,973	28,833	▲2,859	A種優先配当金支払による資本剰余金の減少 利益剰余金の減少
負債純資産合計		104,615	112,762	▲8,147	

2022年12月期 業績予想



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ **新型コロナウイルス感染再拡大を受け、WHG事業の業績予想を修正**
 - ・年内のインバウンド回復は見込まず（当初予想では3Q以降緩やかに回復し、2019年比1割程度と想定）
 - ・ADRの下振れを見込む
 - ・行政機関への施設提供を10月末まで見込む（当初予想では3月までを想定）
- ▶ **ラグジュアリー&バンケット事業、リゾート事業は据え置き**
- ▶ **通期連結業績 当初予想比では、売上高は+7億円、営業利益は据え置き、経常利益は+3億円、当期純利益は+12億円を見込む**

(百万円)	上期			下期			通期		
	①見直し後 予想	②2022年 実績 8/9発表	調整後 予想比 (②-①)	③見直し後 予想	④2022年 予想 8/9発表	調整後 予想比 (④-③)	⑤見直し後 予想	⑥2022年 予想 8/9発表	調整後 予想比 (⑥-⑤)
売上高	16,600	18,308	1,708	23,200	22,191	▲1,008	39,800	40,500	700
WHG事業	7,600※	8,421	821	11,900※	10,878	▲1,021	19,500※	19,300	▲200
ラグジュアリー&バンケット事業	5,800※	6,628	828	7,600※	7,871	▲28	13,400※	14,200	800
リゾート事業	2,100	2,200	100	2,700	2,699	▲0	4,800	4,900	100
その他（調整額含む）	1,100※	1,058	▲41	1,000※	1,041	41	2,100※	2,100	-
営業利益	▲4,600	▲3,804	795	▲1,400	▲2,195	▲795	▲6,000	▲6,000	-
WHG事業	▲2,900	▲2,621	278	▲1,200	▲1,978	▲778	▲4,100	▲4,600	▲500
ラグジュアリー&バンケット事業	▲800	▲403	396	200	203	3	▲600	▲200	400
リゾート事業	▲400	▲586	▲186	▲300	▲313	▲13	▲700	▲900	▲200
その他（調整額含む）	▲500	▲192	307	▲100	▲107	▲7	▲600	▲300	300
経常利益	▲4,600	▲3,512	1,087	▲1,600	▲2,387	▲787	▲6,200	▲5,900	300
当期純利益	▲4,600	▲2,558	2,041	▲1,300	▲2,141	▲841	▲5,900	▲4,700	1,200

※上期セグメント別実績を踏まえ、2022年2月10日発表のセグメント別売上予想数値を見直し

事業計画（2021年～2025年）の主な取組み内容



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

戦略Ⅰ 構造改革 の推進

- ◆ コロナ禍影響の最小化に向けた費用対策（不採算事業対策、コスト削減）
 - ➔賃料減額（2022年通期約▲7億円）、自治体への一棟貸しに伴う労務費圧縮ほか費用構造対策を実施
- ◆ コロナ収束後の収益最大化に向けた生産性向上対策
 - ➔WHG販管部門・事業所の役割と組織の再編
 - ➔2022年4月より新人事制度を導入

戦略Ⅱ 事業ポート フォリオの 見直し

将来の持続的な成長・収益拡大を見据えた施策展開

- ◆ デジタル化（DX）の一環としてデジタルマーケティングへの取り組み強化
 - ➔2022年4月11日 新会員プログラム「THE FUJITA MEMBERS」開始
予約率・予約金額ともに旧会員プログラムよりも好調に推移
- ◆ 箱根小涌園再開発の着実な推進
 - ➔新ホテル開業（2023年7月）に先駆け、ユネッサンの芝生エリア等、一部機能強化を先行実施予定（2022年10月頃予定）

施設一覧 (2022年8月9日現在)



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

WHG事業		リゾート事業		ラグジュアリー&バンケット事業	
《宿泊》 36拠点 10,827室		《宿泊》12拠点 565室 (開業予定1拠点含む)		《宿泊》 1拠点 267室	
■ワシントンホテル (21拠点 6,619室)		■ホテルグレイスリー (11拠点 3,198室)		ホテル椿山荘東京 267室	
仙台	223室	札幌	440室	《婚礼・宴会》 3拠点	
新宿 (本館)	1,280室	銀座	270室	マリーエイド	
秋葉原	369室	田町	216室	ルメルシェ元宇品	
東京ベイ有明	830室	浅草	125室	ザ サウスハーバーリゾート	
横浜桜木町	553室	新宿	970室	《レジャー》 1拠点	
浦和	140室	京都三条 (北館)	97室	カメラアヒルズカントリークラブ	
広島	266室	京都三条 (南館)	128室	<レストラン> 2拠点	
キャナルシティ・福岡	423室	大阪なんば	170室	東京大学伊藤国際学術研究センター内 レストラン【MC】	
山形七日町【FC】	213室	那覇	198室	明治大学 紫紺館 フォレスト椿山荘【MC】	
山形駅西口【FC】	100室	ソウル	336室	会員制リゾートホテル	
会津若松【FC】	154室	台北	248室	《宿泊》 7拠点 460室	
郡山【FC】	184室			■ウイスタリアンライフクラブ	
いわき【FC】	148室	■ホテルフジタ (1拠点 354室)		ヴェルデの森 100室	
立川【FC】	170室	福井【FC】	354室	箱根 18室 熱海 54室	
木更津【FC】	146室			宇佐美 58室 鳥羽 76室	
燕三条【FC】	103室	■ホテルタピノス(3拠点 656室)		野尻湖 64室	
関西エアポート【FC】	504室	浜松町	188室	プロミネント車山高原 90室	
関空泉大津【FC】	151室	浅草	278室	その他事業	
宝塚【FC】	135室	京都	190室	《宿泊》 1拠点 214室	
佐世保【FC】	190室	海外現地法人・駐在員事務所		ISORAS CIKARANG 214室	
新宿 (新館)【MC】	337室	上海			

会社概要



2022年12月期 第2四半期決算説明資料

上場取引所	東京証券取引所プライム市場	
社名	藤田観光株式会社	
証券コード	9722	
単元株式数	普通株式 100株	
	A種優先株式 1株	
事業年度	毎年1月1日～12月31日	
基準日	12月31日	
配当金支払株主確定日（普通株式）	12月31日および中間配当を実施するときは6月30日	
定時株主総会	毎年3月	
発行済株式の総数	普通株式 12,207,424株	計 12,207,574株
	A種優先株式 150株	
発行可能株式総数	普通株式 44,000,000株	計 44,000,150株
	A種優先株式 150株	
決算期	毎年12月31日	

IR担当部門 （お問合せ先）

藤田観光株式会社 企画本部 経理・財務IR部

TEL : 03-5981-7727

<https://www.fujita-kanko.co.jp/ir/index.html>

注意事項：

当資料は、藤田観光グループの業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
また、注記を行っている場合を除き、2022年6月30日現在のデータに基づいて作成しております。
尚、当資料に掲載された予測等は作成時点での当社の判断であり、経営環境の変動により今後変更される可能性がありますのでご了承ください。
当資料の転載はご遠慮ください。